

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

號九二三第・日二十月七輯編局報情

眞實
週報



時の立札

戦ひなり
戦ひのほかは
何かあるぐま

怒りなり 猛々し日本男子の
血をぞげ、脈々とつくるなまき血を

羽生曾産に 乙女起つ 台言葉「サイパンを想く」



「サイパンへ飛行機を」と叫ぶ乙女は聲も涙もふるふる
 昨夏戦線下の七月四日、交替時間に開かれた片倉工業〇〇航空製作所の緊急機場大会は、女子工員も女子挺身隊も準挺身隊もなく、全工場を烈々たる闘魂に燃上がらせた
 同じ年ごろの乙女が皇軍に協力してサイパン島で頑張つてゐると傳へられてから、誰がいひ出したともなく、女子工員はキリツと白鉢巻を結ぶとともに、生産は日毎にぐんぐんと増えて来た
 「もつと飛行機を造りたい。私たちは機場を作れても構ひません。是が非でも、探検艇を

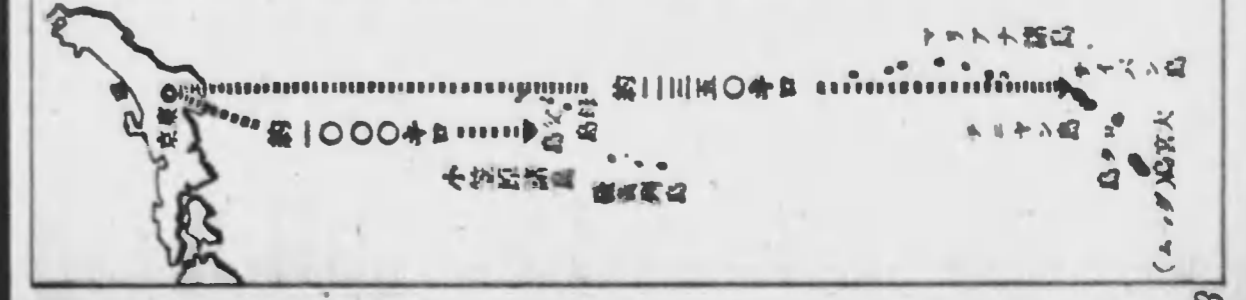
させて下さい」
 止むに止まれぬ乙女の決意は、それまで十二時間二直制の實地を走らんでゐた船木所長も遂に動かされた。誰も彼もなく、轟々と軌る機場で闘ふ乙女は、給養舎の灯の下で僅かな細心の時間に相談して、さらに増産機起を誓ふこの機場大会が開かれたのだ
 「さるぞ」
 唇をぐつと噛んで聴き入る乙女も母もひとしく、明日からは増産へまづしぐらに突入だ
 サイパンの同胞を思へば、この身が焼けようとも、最後の血の一滴まで闘ふのだ。乙女まで闘つこの秋、一度こそつて増産へ突撃だ
 資料提供 読者新聞社

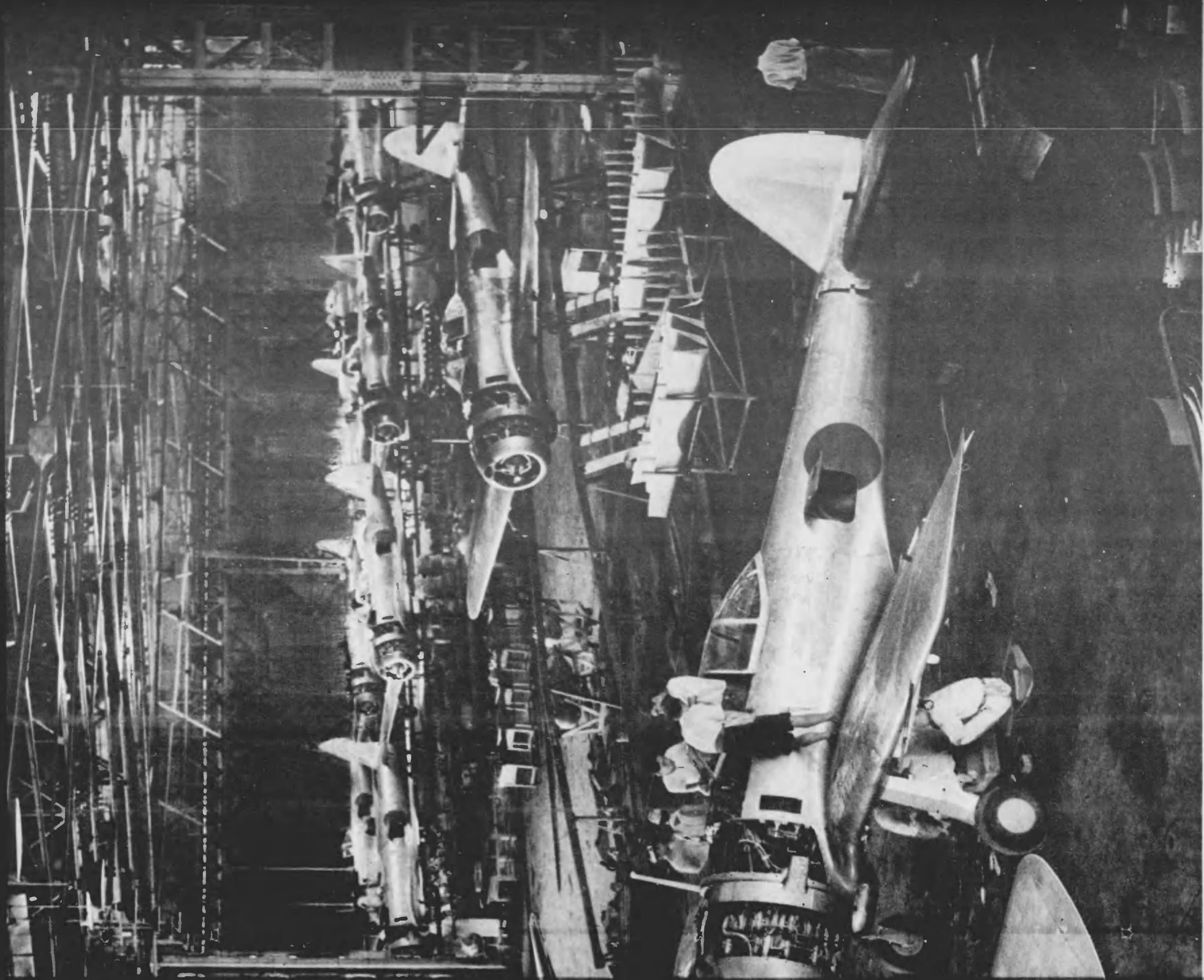
週間點描

神州の南端サイパン島を鮮血に染め、わが將兵は戦ふ。万余の同胞また、恐く起つて闘ふ。誓てわれらが祖先は、時、野島に鎮する元軍を逐へてこれを殲滅した。あの日の祖國の壯絶を思ふべし。わが二人の愛児を國旗にさしげんと、自軍の旗頭首を持ち、絶せしむる老婦もあつた。あのとき正に敵愾心は皇土を敵うたのである。再び来渡ふ米寇。断乎撃つべし。断乎撃つべし。

サイパンの決闘その後の経過は、
 一、大本營電報（昭和十九年七月一日）、「わが航空隊は六月二十四日小笠原群島南方海面に於て北中中の敵機部隊を捕獲殲滅し、航空母艦二隻、艦隊旗艦三隻を撃破し、敵機五五以上を撃墜せり。我が方の損害は四六機なり。二、わが航空隊は、マリアナ群島守備隊の功勳に呼應し、同日米機を撃墜多量。撃墜すると共に、サイパン島の敵機隊及び南五箇島の敵機隊を攻撃中にして、六月二十三日、四日までに判明する敵機左の如し
 敵機一機 敵機二機 敵機三機 敵機四機 敵機五機
 敵機六機 敵機七機 敵機八機 敵機九機 敵機十機
 二、大本營電報（昭和十九年七月四日）、「サイパン島の現況は、我々の機がサイパン市街、タガート山、ドンイの嶺に於て優勢なる敵と激戦中なり。二、敵機部隊は七月三日機隊を空襲し、四日朝米機隊及公使館を空襲せり。所在の

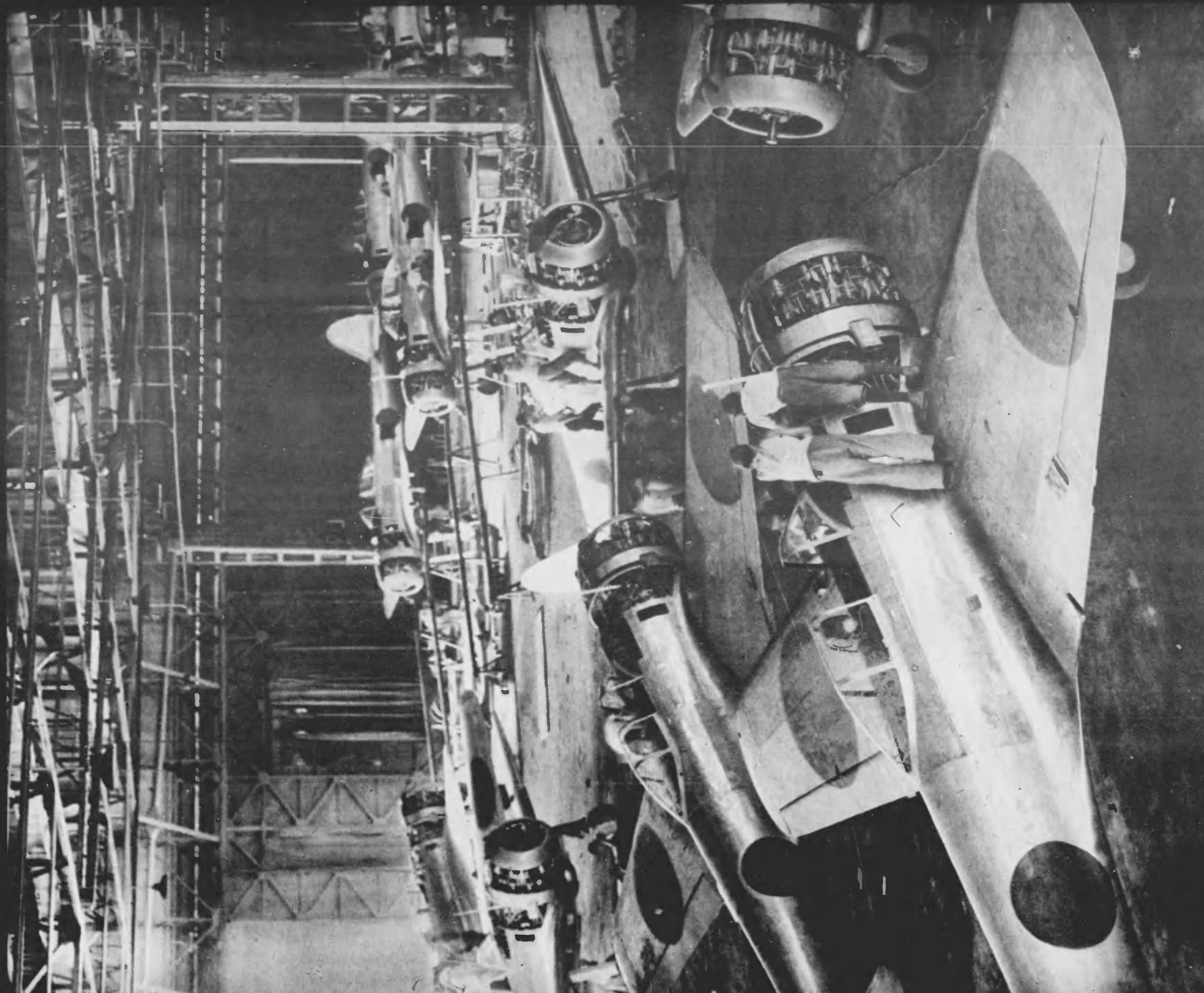
我々にはこれを機場機中にして只今までに判明する敵機三〇機以上なり
 三、大本營電報（昭和十九年七月五日）
 サイパン島の陸揚隊の如し
 優勢なる敵は飛行機及び砲隊の機隊の増強を受けつゝ、艦隊を伴ひ逐次同島北西部の我陣内に進入し來り、敵機は我陣内に所々に墜落を遂げしつゝあり、我陣内は砲隊第一團より逐次よく自兵を以て勇戦奮闘中なり
 陸海軍將兵の勇戦奮闘にもかゝり、はらば敵の損害は未だ局部にすぎず、サイパンの戦雲ますます濃し。いまぞ大和民族、傳統の力を發揮、決然として敵機部隊の侵入を拒むのである
 しかも父島は、本土を距る僅かに八百八十キリ、薩島までは千二百餘キロ、同方面への敵機部隊の出現は更には本土に近接する公算が大であつて、機を狙ひつゝある敵の本土空襲企圖に對しては十分警戒しなければならぬ。
 殊に敵機隊指導者は日を擧げて、七月四日（日本時間七月五日）には東京市銀座を飛行すると揚言し、また一昨年四月十八日ホーネット號から飛立つて東京空襲に参加した米陸軍大尉ロリンは「再度の東京空襲は前回より幾かに大規模のものとならう」と斷言してゐる。これらの言を俟つまでもなく、今後敵の空襲企圖が一層熾烈となり、その規模も前より幾らものなものでないことは、十分に豫想される。……いま文字通り國內も戦場である





戦力蓄積

戦力を蓄へよう。
われらの血と汗、
そして神州の生氣
が凝つて戦力とな
り、敵の頭上に炸
烈する日の壯絶さ
を思はう
時はいま。物量を
積み、物量によつ
て勝敗を決しよう
と、皇土に迫る機
虜の鯨波が太平洋
を越えて、身近か
に聞えてくるでは
ないか
さあ、一億の總力
を結集して戦力を
積まう



敵の滅撃翼！ 造れ

無敵新鋭機は並ぶ、
並ぶ、並ぶ、工場も狭
し。集まる工員の氣
魄が遂に飛行機となつ
て爆發したのだ

青熱も何のその、増
産に光る汗こそ敵への
汗だ。一機また一機を
決戦の天空へ舞ひ上げ
せよ。板をふくお銀
翼は、早く飛はせてく
れ、時はまだ」と叫
んでゐるではないか

驍機を新打する戦力
も、驚天の戦果も、増
産機に決する。速らず
はやまさる工員の闘志
を發揮しよう。これが
戦力の第一線だ

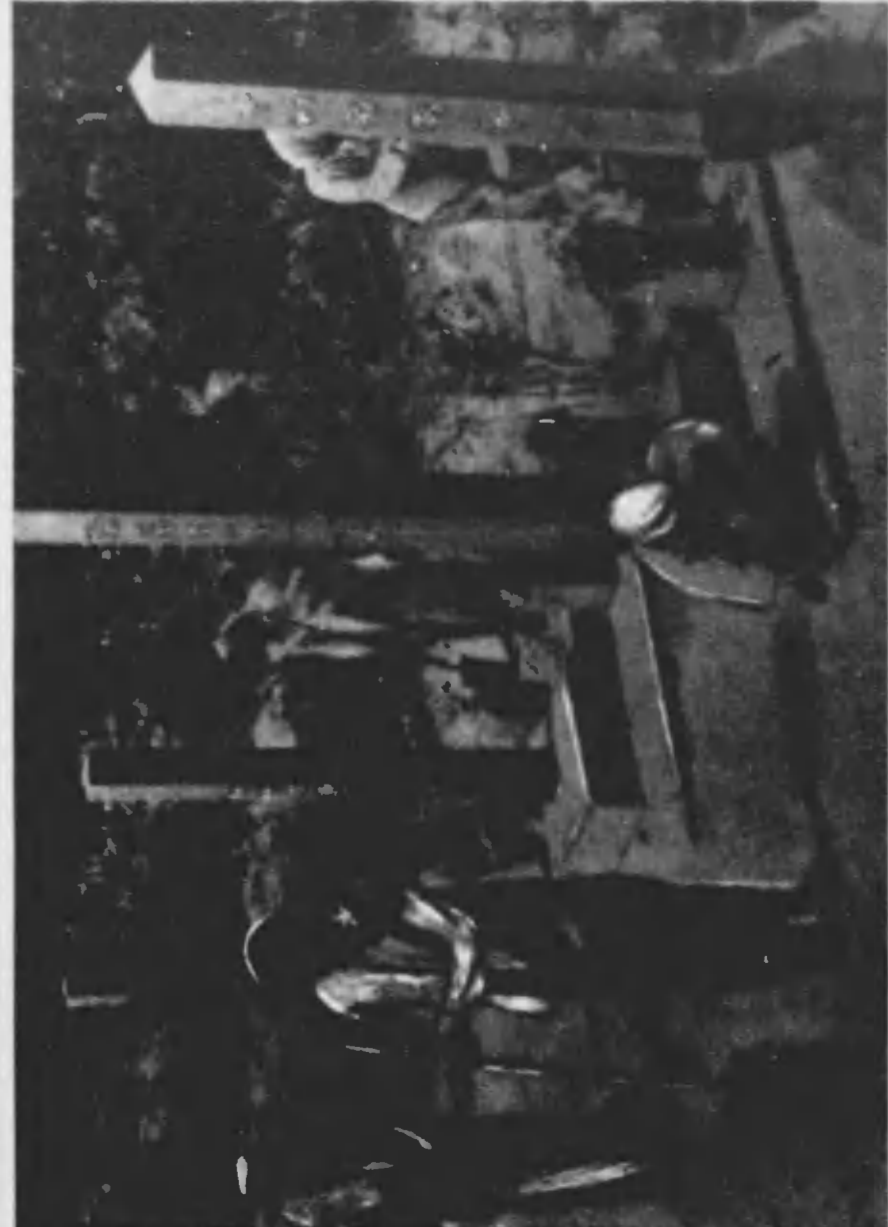
⊃
また一機出来たぞ、
次ぎだ、





島津が「ギタネオ」建設以来すでに二年餘、原住民たちが島津に信頼して、いろいろと建設事業に積極的な協力をしてゐることは、たび／＼本誌で紹介いたしました。ケチンの公民学校のヨイコたちも、日曜ごとに戦役勇士たちの墓におまわりして日本による美しい心をみせてゐます。 撮影 小津海軍報道員

新しい花ととりかへて、きれいにまはりを繕いて——日本将棋、ボクたちが代つてお掃除をします。安心してクダサイ



勝利の日へひとすぢの飯粒をひくもの、薪だ、薪だ、と内地の叫びに呼應して、印度洋にのぞむ〇〇造船所では原住民たちがせつせつと木造船の修打中です。好くやうな気持を物ともせず頑張つてゐる心気は大したものではありませんか 撮影 島田海軍報道員

「ロイヤ」と兵隊さんのピストルに、南の雲を浮べたアールをのぞんで、一瞬、息をのむ北ギタネオの列兵たち。この頃は日本の兵隊さんから正式の泳ぎ方も覚えてしまひ、白いしぶきをあけての強い泳ぎぶりには、兵隊さんたちも舌をまいてゐるさうです 撮影 島田海軍報道員



新信事務の第二線に挺身せんとする現地人のために、この五月、スマトラ「アキチンゴ」市には新信学校が開校されました。費用は官給で、全寮舎に入り、きびしい軍隊教練のもと大東亞精神の獲得と技術の修練に毎日餘念がありません 撮影 マライ、スマトラ軍政課

こゝでの用語は日本語一本達。生徒は中等科三年修了程度。モリス信號をたくく正確の音も希望に聞いて——



白面の戦血臭、米袋をわれらの共愛園から叩き出してくれた精強日本をよく知らうと、いまや南方各地には柔剣道熱が大變な勢ひでひろがつてゐますが、こゝヒルマでも、治安維持にあたる現地人警官が日本人練士、銃士指導のもとに日夜猛訓練をしてゐます。凄じい気合はインドへもひゞけと南國の碧空に射してゐます 撮影 井田海軍報道員

おまへは、戦艦、巴拔けまでこの頃は大した練習 撮影 井田海軍報道員



共愛園だより

三尺の秋水に「劍の道」を説く日本の銃士

